

経営比較分析表（平成29年度決算）

長野県 飯島町

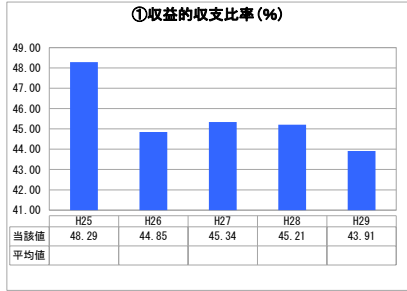
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	56.94	100.00	4,752

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
9,650	86.96	110.97
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
5,453	3.01	1,811.63

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



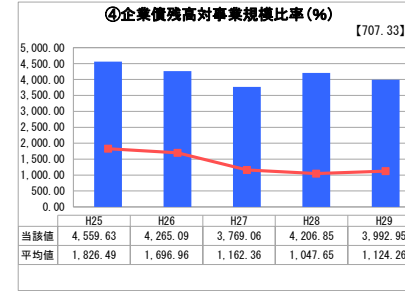
「単年度の収支」



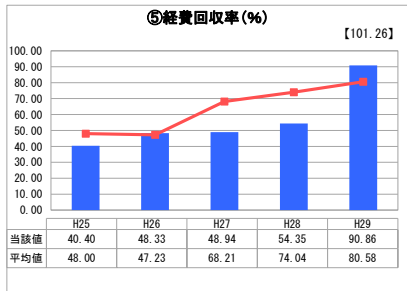
「累積欠損」



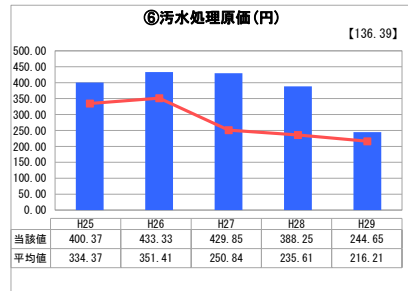
「支払能力」



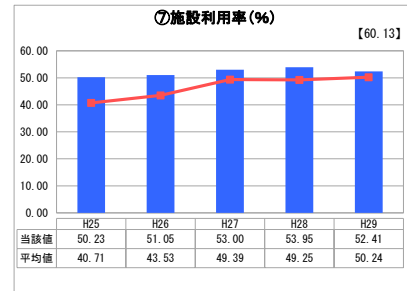
「債務残高」



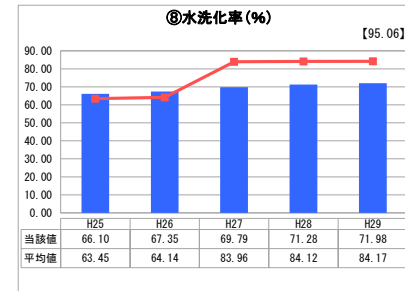
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

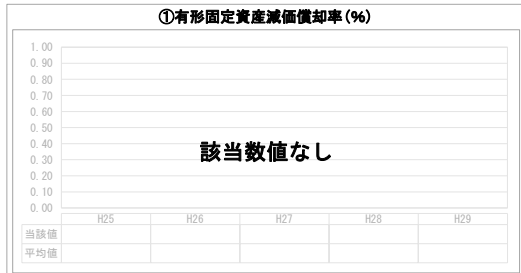


「施設の効率性」

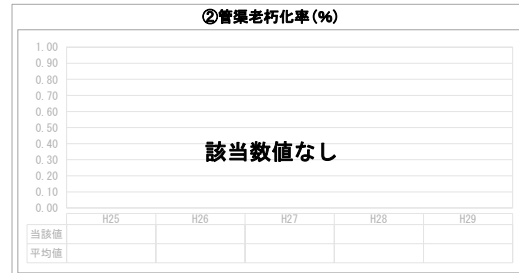


「使用料対象の捕捉」

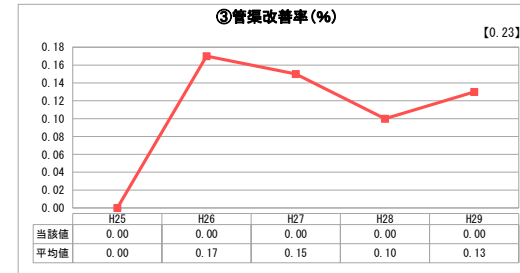
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は、年々低下しており、50%を超えず、厳しい状況が続いています。企業債残高についても、現在ピークを迎えており、事業規模に対しての比率が非常に高くなっています。このため、一般会計からの繰入金に頼らざるを得ない状況となっています。

経費回収率及び汚水処理原価は、昨年度と比較し使用料収入はあまり増額となりませんでした。維持管理費を削減できたため良い数値となりました。しかし使用料収入だけでは維持管理費を賄うことができない状況に変わりはありません。

施設利用率は横ばいであり、今後は事業規模は拡大せず、現状の規模のまま農業集落排水の統合を検討していきます。水洗化率は類似団体と比べ、遅れをとっているものの、事業開始が遅かった処理区があるため、今後徐々に伸びてくるものと思われます。水洗化を加速させるため、施工業者を含めてPRが必要と考えています。

2. 老朽化の状況について

最も古い管渠は、平成6年度に布設されたものであり、標準耐用年数が50年であるため、更新の予定は立てておりません。しかし、近年大雨の際に不明水が流入することから、対策が必要であると考えています。

処理場については、標準耐用年数を超えた機器が増加しており、計画的に更新していく必要があります。ストックマネジメント計画の策定も含めて進められるよう、スケジュール管理を行ってまいります。

全体総括

事業全体の運営と今後の見込みについては、昨年度と大きな変化はなく、独立採算は難しい状況が続いています。今後、老朽化した施設、機器更新のための財源を確保しなければなりません。水洗化率を上げ、使用料収入を増やす必要がありますが、少子高齢化による人口の自然減は避けられず、大きな使用料収入の増加は見込むことができません。

将来的には、農業集落排水の統合を検討しており、経営改善を期待しています。まずは、平成32年度からの法適用を目標とし、経営の見える化を図ります。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。